

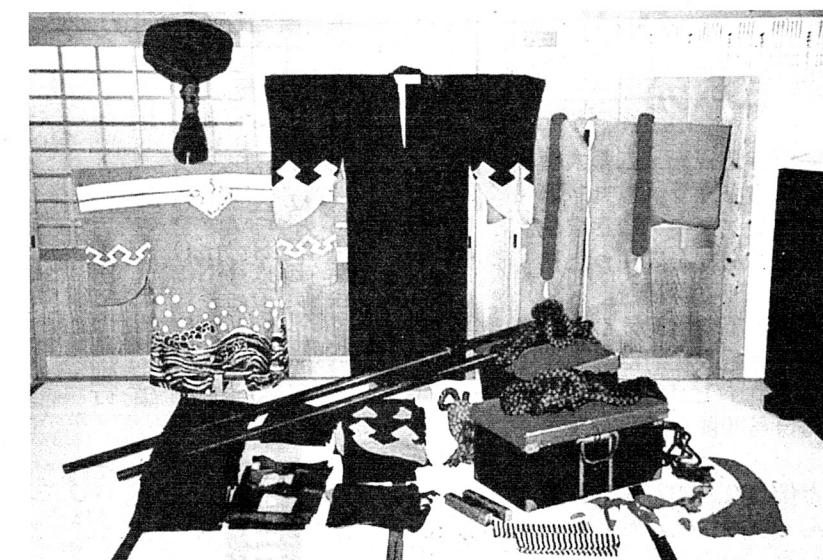
やまと 民俗への招待

鹿谷 熱

生駒市乙田(現萩の台)で、昔盛んだったジヨロリ(淨瑠璃)やシバイ(歌舞伎芝居)の用具を調べたことがある。庶民の芝居への憧れが伝わる貴重な用具群だった。地元の人々と市教育委員会が台帳を作つて整理し、市の文化財になり、さらに2007年には県指定有形民俗文化財になつた。この芸能資料以外にも毛槍や挟み箱、着物・法被など奴行列の用具もあつた。葬式時に使つたといふが、1932(昭和7)年が最後というだけで、詳細は不明だった。

十三塚の調査で訪れた平群町教委の村社仁史さん(当時)にこの話をすると、77(昭和52)年に同町椿井の集落で葬式時に奴行列があつたといふ。その時の8ミリ映像もあるというので、見せてもらった。鉢を先頭に、結び姿で竹杖を持つた先

生駒市乙田(萩の台)に残されていた奴行列用具
=2000年、筆者撮影



生駒市乙田(萩の台)に残されていた奴行列用具
=2000年、筆者撮影

異世界へ導く奴行列

生きした人や地元に貢献した人が亡くなつて、依頼があった時に行つ。元は葬家から墓まで行列したもので、それまでにも何度もあったという。頼まれて同町西の富や生駒市乙田、三郷町下ノ庄などでも行つたという。用具や衣裳は地元の寺に保管されていた。袖を三角に仕立てた「陸尺看板」という駕籠かきの法被も残されていた。葬式以外に、住職が入寺する際にも行つたという。新たに寺に赴任する時、檀家の一軒が親元になり、ここに一旦入つてから、寺に向かうのだという。さらには下市町丹生では、寺の修理や大法要などの際に、奴行列を仕立てたことも分かつてきた。

近年、葬式は家族葬で簡素に行われることが多い。縁のある者にとっては、参列の機会がないため、気持ちは区切りの付け方がいい。縁のある者にとっては、参列の機会がないため、故人との別れを截然と行うためにも、祭礼と並ぶような華やかさを伴う公の儀礼であった。

(奈良民俗文化研究所代表)

県内の奴行列といえば、春日若宮おん祭のお渡り行列、吉野山金峯山寺の花供会式、宇陀市のお太水分神社の祭礼などに登場する。また、鴨都納された大型の祭礼渡御図絵馬(県指定有形民俗文化財)が伝わり、趣向を凝らした華やかなお渡り行列が描かれているが、この行列の先頭で晴れやかな奴が列を率いている。